

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成25年度採択分）  
「人類学分野における世界トップ水準の小型学術雑誌の確立」  
（課題番号：252010）

学術団体名：日本人類学会  
学術刊行物の名称：Anthropological Science  
事業期間：平成25年度～平成29年度

## 1 取組の概要

### ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

Anthropological Science誌（AS誌）は、従来から、自然人類学の専門分野において、欧米の学術誌と並ぶアジア刊行の優良専門誌として認知されており、特に日本ならびにアジア太平洋諸地域の人類集団の多様性と進化様式に関わる高い専門性を持った学術情報発信を担っている。2004年にはグローバルな視点の発信をも目指し早期に電子ジャーナル化とオープンアクセス化を実施した。本取り組みでは、小規模学会に相応しい規模の事業と運営体制を継続しながらも、より高いインパクトのある論文の掲載頻度を確実に増し、学術誌としての国際的地位をさらに確立することを目的としている。そのためにAS誌掲載論文の引用状況について系統だてて調査し、その結果を参考に焦点を絞った広報勧誘を行う。これにより、特に高インパクト誌における被引用実績を積み上げ、小規模ながらも認知度の高い専門誌としての地位を確立したい。

### ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

評価指標としては、専門領域の規模と中長期視点での研究の重要性を鑑み、以下のものを考えた。1) インパクトファクター（IF）の維持向上。2) 中長期的に年平均引用数が1.5もしくは2程度以上の比較的高い認知度を持った論文掲載の増加。3) Nature、Science、PNAS誌で代表される総合型の高インパクト誌におけるAS誌掲載論文の引用数の維持向上。

## 2 目標の達成状況

### ・現在までの目標の達成状況

今回、Nature、Science、PNASの3誌（以下「3誌」）等の総合型高インパクト誌におけるAS誌掲載論文の引用状況を網羅的に調査した。結果、出版規模で標準化すると、自然人類学の他の有力誌に類する被引用実績がAS誌にあり、その引用内容を確認した。2004年以後にAS誌に掲載された論文を引用した「3誌」の論文は42編あり、雑誌規模（出版論文数）で標準化したAS誌の当該値は0.18、Primates誌（同値0.07）、AJPA誌（0.08）よりむしろ高い。一方、「3誌」による最近10年間の引用数は、AS誌は57回（基準化値0.27）であり、Primates誌（同値0.30）、AJPA誌（0.76）より低い。これらの結果は、AS誌が「3誌」に引用される頻度の高い核となる論文を一定数掲載していることを意味する。並行して、AS誌にaffinityのある研究者・グループを網羅的に特定した。これらの情報に基づき、質の高い論文の投稿を促す個別勧誘を内外の研究グループを対象に進め、本取組によるAS誌への投稿と掲載を着実に増している。これら2014年以後の新規掲載論文はAS誌の国際的認知度を高めることに寄与することが期待されている。IFは電子ジャーナル化前が0.3から0.4程度であったのに対し、電子ジャーナル化後の当初6年間は年平均0.796、最近5年間は年平均0.815である。年平均被引用数2以上の論文掲載は、電子化以前はわずかであったが、最近10年間では全掲載論文の12%を占めている。また、アジア・太平洋地域における基盤的成果の一端をなすAS誌論文の掲載割合は、電子ジャーナル化前の4年間の平均27%に対し、電子ジャーナル化後は28%（電子化後当初6年間は年平均26%、最近5年間は年平均31%）であり、継続的にその機能を果たしている。

### ・今後の計画

2013年度以後の個別勧誘によるAS誌掲載（含予定）論文は現在までに8編に上っている。これらの掲載論文はAS誌の国際的認知度を高めると共に、一部は今後、高インパクト誌に引用される有力候補であると考えている。これまでの活動が順調に成果を上げているため、28、29年度も同様に継続する。それにより、取り組みの評価指標が達成できるだけでなく、長期的にも維持可能と考えている。